

☆ゼロ学期を迎えて～次年度への鍵☆

1・2年次生の皆さん、ゼロ学期(次年度に向けた準備期間)は年明け1月から始まり、定期考査や卒業式、高校入試も終えていよいよ年度末休業を迎えました。今一度この1年を振り返ってみてください。目標を設定して納得のいく取組がどれだけできたでしょうか?進路準備・総合的な探究の時間での調べ学習やプレゼン準備・部活動・学校行事等を是非振り返りましょう。課題や反省点に気付いたり、達成感がさらなる向上心につながれば、それが君たちの「伸びしろ」です。

全国的な傾向としてこの1・2年で専門学校進学希望者が減少し、4年制大学志向が高まる傾向にあります。また、年内入試(総合型選抜・学校推薦型選抜)の加速化に伴い、受験準備も従来の一般選抜に向けたいわゆる受験勉強と課題に対して理解を深めた上で求められるプレゼンテーション準備への労力を承知した中で進路実現に向けて取り組んでいかなければなりません。総合型選抜も視野に入れた準備をするためには、これまで「総合的な探究の時間」で取り組んできた調べ学習は大きな武器となるはずですが、また、国公立大学・私立大学に向けた準備として積み重ねた教科(英語・数学・国語)の重要性を忘れてはいけません。皆さんの明るい未来のために3月19日に実施したスタディサポートをひとつのきっかけとしてこのゼロ学期に是非「活用Book」も制覇してみましょう。「後回し」は御法度です。現状に甘んじることなく、自らの意志でトライしていきましょう。

☆受験で見られる観点☆

<留意点>

昨年の5月からコロナ感染症の扱いが5類(インフル等と同等)となり、受験先の事業所や上級学校の分野にもよりますが、欠席日数(出停は含まれません)も合否判定の要素として判断されることが十分に想定されることも知っておきましょう。体調管理も進路実現への大切な要素です。

<面接試験>

民間就職試験や公務員試験のほか上級学校の総合型選抜・学校推薦型選抜や一般選抜であっても分野(医療系等)によっては面接が課されることが多々見受けられます。面接試験では、高校からの調査書・推薦書等や生徒の用意する自己推薦書等の記載内容の確認だけでなく、人柄や意欲を面接官との直接的なやりとりの中から見られることとなります。明確な志望理由と謙虚な姿勢の中に主体性・協調性を伝えられるよう日頃から意識して学校生活を過ごしましょう。

<プレゼンテーション>

多くの場合、プレゼンテーションは、上級学校の総合型選抜で課されることとなります。学校の種別や専門分野により、課される内容は様々ですが、大学(短大)の傾向としては、提示された課題(図書)を受験生がどのように理解し、考えているかをプレゼンテーションで発揮することが求められています。「総合的な探究の時間」の取組は大きな糧となるはずですが、また、大学(短大)に向けた一般選抜の準備も並行して行わなければならないため、受験生にとっては、負担が大きいことをわかった上で今から準備をすることが大切です。

<一般選抜>

言わずと知れた学力試験です。受験科目は大学や学部により異なることがありますが、一般的には国立大学の場合は共通テストで国語・数学・英語・地歴・理科・情報が課され、二次試験(大学・学部により様々)を含めた合否判定がなされます。公立大学は、大学により設定科目が異なる場合が多く見受けられます。私立大学は、国語・英語・数学・地歴公民・理科・情報の内から3科目型の受験が主流となっています。本当は国公立大学に進学したいと思っても、全科目に全力投球しなければ合格できないと思って躊躇している人はいませんか?文系で英語・数学に、理系で数学・理科に対応する学力を養成できる受験生は、共通テストの科目登録時に必要最大科目として理科基礎科目や地歴公民科目の登録がお勧めです。必ずしも5教科に全力投球している受験生だけが、合格しているわけではありません。理系は、英語の対応力が身に付くとさらに選択肢が広がります。一般論になりますが、英語・数学に対応する学力養成が進路実現に向けた大きな鍵となることを肝に銘じてください。

☆受験スケジュール～日程から逆算準備☆

次の受験スケジュールから逆算して、新年度に向けた心の準備をしていきましょう。

受験までの流れ

高校3年生

- 9月 大学入学共通テスト受験案内配布
- 10月 大学入学共通テスト配布
学校推薦型選抜 出願
- 1月 大学入学共通テスト 本試験
- 1～3月 私立大学一般入試
- 2月 前期・大学個別試験
- 3月 中期日程・後期日程

受験まであっという間…。



☆先輩の声に耳を傾けよう！☆

現3年次の受験生複数名から合格報告で登校した際に受験準備から合格までの話を聞く機会がありました。概要は次の箇条書きのとおりです。

<受験終了までの期間>

- ・真剣になればなるほど時間が足りないことに気付いて焦った。
- ・総合型選抜の準備だけでも大変なのに一般選抜準備を早期から始めている受験生がたくさんいることを実感して本当に焦った。
- ・総合型選抜の可否結果が出るまでの期間は、不合格時に対する不安が大きく、つくづく受験勉強と並行すべきだと思った。
- ・一般選抜では自分なりにはやれるだけやっているとつい思いつつも、これまでの学習で足りるのかどうかという不安が常につきまとった。
- ・受験勉強のスタートが秋だったため、真剣に勉強すればするほど時間が足りないと感じた。英単語力の足りなさを実感したが、覚えるには焦りも加わって時間を要した。
- ・英文法の抜け漏れを埋めようと努力したが、時間がかかってしまい結果として思い描いたようには長文演習をこなさきれなかった。
- ・政治経済を受験科目として選択したが、一問一答式だけでは、記述問題に対応が難しく、書いて理解を深めるよう方法を変更したが、時間がかかり苦勞した。
- ・学校の勉強を早期から真剣にやっていたら全て受験に足りると思った。
- ・国語は評論の表現が堅苦しく、苦勞したが論旨のしっかりした文章は答えの根拠が必ずあると思って頑張った。
- ・苦しい時期と一緒に頑張る友人が支えとなり、頑張れた。進路の決定した友人も協力的で感謝している。

<先輩からのアドバイス>

- ・ありきたりですが、受験準備は早ければ早いほどいいに決まっています。
- ・自分に合った学習方法を見つけるにも色々と試行錯誤を繰り返し、自分は1ヶ月半はかかった。
- ・受験のお勧め教材にハズレはなかったが、お勧め勉強法は人によって合う合わないがあるので自分に合った学習方法を見つけ出すことから始めるといい。
- ・真剣に受験勉強すればするほど学校の授業で足りると思った。
- ・英語の力を付けて武器にできれば強い。リスニングは慣れが大事で、軽視は危険。副教材のEngageは本当に良かったし、私大入試にもほぼ同一の問題が出ていた。
- ・周りに流されないことが大事で、真剣に準備すればするほど実感できます。
- ・学校の授業を大切にす意味も真剣に準備すると実感します。

☆新課程入試の始まり☆

新年度3年次生から新課程入試が始まります。これまでの入試との相違点について説明いたします。相違点の概要としては、科目の追加、科目内容の内訳変更、解答時間の変更、科目名称の変更が挙げられます。

大学入学共通テストでは、受験科目に「情報Ⅰ」（60分・100点）が追加されます。「国語」では配点内訳がいわゆる現代文が100点→110点、古典が100点→90点へと変更になりました。また、解答時間の変更として、「国語」は80分→90分、「数学Ⅱ、数学B、数学C」は60分→70分へそれぞれ変更となります。名称変更としては、地歴公民科目では(a)1科目として「地歴総合/歴史総合/公共」、(b)5科目として「地理総合、地理探究」、「歴史総合、日本史探究」、「歴史総合、世界史探究」、「公共、倫理」、「公共、政治経済」が設定されます。また、理科の基礎科目は、「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」で1科目扱いとなります。

「情報Ⅰ」の扱いについては、国立大学ではほぼ全大学が必須科目として設定し、公立大学では、必須科目としない場合が見受けられます。私立大学の共通テスト利用入試では、必須あるいは選択科目としている場合が多く、一般選抜では、学部系統により受験科目に課さない場合もあります。

大学種別（国公立大学と私立大学）・学部系統・受験方式（共通テスト利用入試・一般選抜）により、「情報Ⅰ」の扱いが異なることが想定されます。「情報Ⅰ」が加わることで受験生への負担がこれまで以上に増加することが懸念されるようですが、受験突破の王道は、これまでと変わらず英語・数学・国語の実力をしっかりと身に付けることです。今、大切なことは、受験科目を絞り過ぎずに主要3教科の自学自習力を高めることです。このゼロ学期のうちに日程から逆算してしっかりと自力を高めましょう！

自分の希望進路を実現するために

目標を達成した人に共通するポイント

- ① 目標が「はっきり」している。
「いつまでに?」「どうなりたい?」
- ② 「今の自分の状態」を理解している。
「何が足りないのか」
- ③ 「文武を切り替え」行動に移している。
「自己コントロール力」「心の強さ」「判断力・スピード」